

『生きられた家』 多木浩二

↳ 篠山紀信の写真集『家—the meaning of the house』が

1. 生きられた家

「どんな古く醜い家でも、人が住むがせりには不思議な鼓動を失わないものである。変化しながら安定しているあの自動修復回路のシステムである。磨滅したか風化してぼろぼろになった敷居や柱も、傷だらけの壁や天井のしみも、動いているそのシステムのなかでは時間のかたちに見えてくる。住むことが日々すべてを現在のなかにならへかえるからである。家はただの構築物ではなく、生きられる空間であり、生きられる時間である。」 (4)

↳ アレクサンダーの『スモールフィードバックループサイバネティクス』

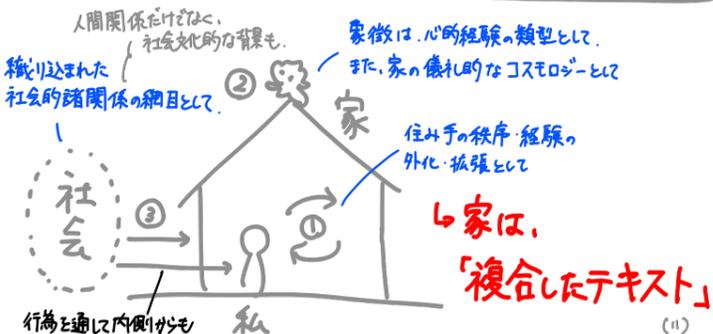
新居... 数日~数ヵ月異和感

① 「私が住むことの秩序がいつしか支配的になる。」
↳ 客観的な秩序、体験された対象の秩序ではない。 (4)

「家が住み手である私の経験に同化し、私がそれに合わせて変化し、この相互作用に家は息をつきはじめ、まるで存在の一部のようになりはじめるのである。」 (10)

「家にはまたわれわれを超えた力が作用している。」 (11)

- ② 家の象徴性 → 太古や生命の根源と結びつけるアーキタイプ (11)
- ③ 社会的な関係



↳ 家は、**「複合したテキスト」** (11)

「この俗なる家と建築家の作品には埋めがたい裂け目がある。」 (12)

生きられた家

・「**生きられた時間の結果**」 (12)

・「**詩的言語**」 (12) 「生活術が作りだすさまざまな虚構的現象、」
「湯いた肉体の沈黙のことば」

「生きられる空間はさまざまな矛盾にとむ現象であるが、同時に、知覚作用、知的(技術的)操作、欲望の深さにもとづく「生活術」に構造化された記号の織物(テキスト)なのである。」

・**紋切型 / コンフォルミズム** 画一主義

↳ 「この均並みな世界は、インヴァジブルな慣習からなるネットワークとして織られている。」 (12)

・**住むことと建てることの一致**

↳ ハイデガー「建てること、住むこと、考えること」(1951)
「住む」という極くあたりまえのないなみで、人間が本質を実現するキーワードとしてみている」 (16) → **これが可能なか「場所」**

「民家から何をひきだすべきか。住むことと建てることか」一体化される構造があったことを見出すこと、この構造の意味を知ること、それ以上ではない。この一致がわれわれに欠けており、その欠落(政郷喪失)こそ現代に生きているわれわれの本質であると考えることが必要だと、ハイデガーは述べているのである。」

石山修武
『SELF-BUILD』
伊藤ていせい
『民家は生きてきた』

・**共同体と家** → 家を通じて技術・知識を蓄積・伝達

「家は外化された人間の記憶であり、そこには自然と共存する方法、生きるためのリズム、さらにはさまざまな美的な感性の基準となるべきものにいたるまでが記入された書物であった。」 (20)

建築家の作品

・「**現在の行きつく果てをあらかじめ読みとって構成される**」 (12)

・「**コード化された言語**」 (12) ハイポロジーとは?
↳ 普遍化された概念が前提、生きられた家々から抽出した「建築性」

・「**いたずらに新規性を求める現代の文化**」 (14)

「いわゆる民家はまもなく消えてしまうだろう。民家がなりたつ条件そのものが社会から消失しているのだ。」 農村・材料の場・共同体(ゆい)など

「私がさきにわざわざ生きられた家から建築家の作品を区別したのは、ひとつには**住むことと建てることの一致**が欠けた現代で、このような人間が**本質を実現する「場所」**をあらかじめ作りだす意志にこそ建築家の存在意義を認めなければならぬ」 (18)

間接化と手の失権

↳ コレスポダンスなプロセスの喪失

「途方もない複雑性と矛盾をもった人間」 (24)
を直接扱う手段(=「手」)が失われた。

・ 生きられる家の形成の運動

ネガ・エントロピー (= 複雑性の再組織化)

「無秩序や雑音とともに機能する」 (24)

↳ **自然-社会-文化-精神を包含する複雑な変動過程に影響されつつ、組織化する。**

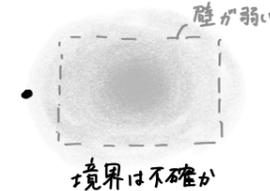
2. 空間の織り目

↳ 日本的な空間・場所の在り方について

日本

『方丈記』 鴨長明

・ **身振り、出来事**



・ **仮設の家具**
↳ 床が出来事の場合

↳ **意味の次元で空間が発生・分節、あるいは消失する。**

・ **出来事の舞台としての場所の連鎖**

・ 演劇的
・ ディビジョン

・ 「おもて」と「うら」の分節

↳ **意味の連鎖についての認知の図式** (16)



西洋

『空間の詩学』 R.バシュアール

・ **実体、物質性**



・ **固定の家具**

↳ 家具が出来事のポイント

↳ **物質の次元で行為・出来事と対応、確かな存在感。**

・ **物理的限界のある空間単位の結合**

・ 博物館的
・ アディション

3. 住みつくかたち

空間図式 「知覚は予期図式にもとづき、現実を認識し、同時にこの図式と現実の経験によって修正する。」 (71)

たとえば、デパートのトイレ階段の場所を知らなこともわかる。
 身体性に基づく + 集会的・民族的に伝承
 空間認知の図式・様式
 記憶・潜在的意識・文化なども影響
 ↳ この時代の思想や制度の影響を受けつつ、変遷していく。(77)

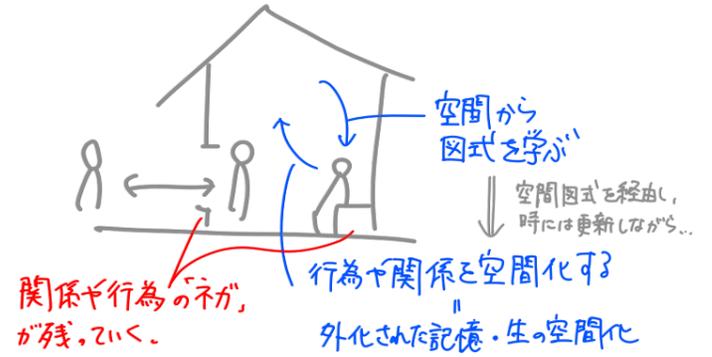
×テキスト ↔ テキスト(実体)
 抽出される

象徴 テキストとして読み得るような意味や記憶や意識が実体としてあらわれ出たもの。

例えば TOKYO STYLE... 住人の人柄や物語と思わせる象徴にあふれている。

「人間は家をつくり、道をつけ、都市を建設してきた。これは人間が個人的・集团的に自らの行為や関係を空間化し、空間化することによって自己を実現する能力をもっていたことを示している。空間を枠として行為を展開するといふより、行為は空間として構造化される。」 (74)

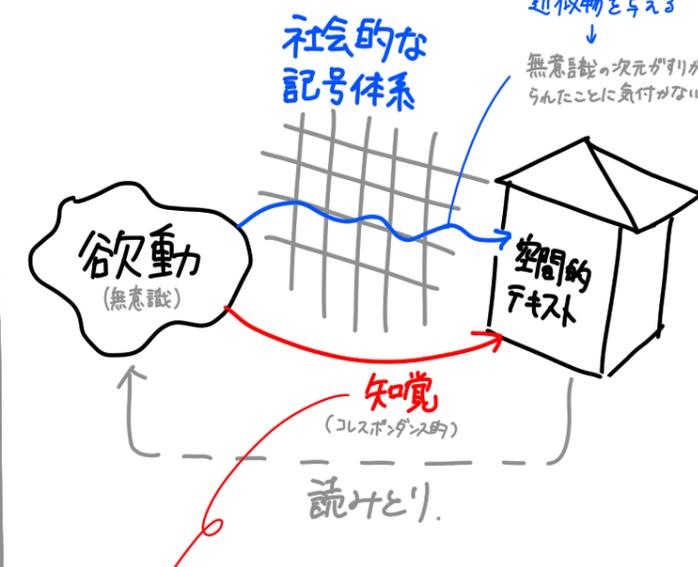
「このように生が空間化することが、建築を非言語的・空間的なテキスト(象徴の生成)として読みうる理由であり...」 (74)



・コスモロジー

「領域は、集団が自らの宇宙を構成する場である。それは自然的な地形と無関係ではないが、それ以上に身体、家、集落、宇宙をつらぬく認識を示すシステム(コスモロジー)になるのである。」 (90) → バリ島の例(91)

4. 欲動と記号



感覚的刺激は木や石や土など物質的なものからきて、私のその場へ住みつき方—それを私は「知覚」的活動とよぶのだが—をみだすのである。(100)

↳ コレスポンドするプロセスを通じて、「私たちはそのなかに住みつく。」 (101)

・記号体系に回収されていくこと

近代デザイン初期における家具や建築。
 「まず意味である以前に圧倒的な感覚的世界の狂暴さであつたのである。建築や構造物はそのとき、意味のわからぬ文字、文字以前の文字のように語りかけてくる。感覚的世界の前線は、このように時代や社会によって移動する。」 (113)

知的操作

物の発生とそれが記号化する過程。(101)

- ① 機能=動作と形態に近似する。(いくつかの機能素から形態を合成すること)
- ② 社会的に共有・反復され、制度化する。↳記号化
- ③ 使用の過程で二次的な意味が生じる。

↳ 近代デザインは③を見落とした。

「首尾一貫した合理的本質構造を対置」
 ↳ 質料形相論

「社会的な意味の次元での運動がある」
 「物を支配しているのが必要の充足でなく欲望にもとづく象徴的交換であるという...」 (123)

・ブリコラージュ

「野生の思考を規定するものは、... 濃く象徴意欲であり、同時に、全面的に具体性へ向けられた細心の注意であり、さらにこの二つの態度が実は一つのものなものである」という暗黙の信念である...」 (134)

↳ 記号をとりはがし具物に対峙し、そこに意味を与えたいという欲動

↓
 商品化された社会の中では難しい。

5. 象徴とパロディクス

・図像としての痕跡 「アナロジー連想作用」
 「アナロジー連想作用」
 「アナロジー連想作用」
 「アナロジー連想作用」



空間図式の2側面

① アーモタイプ → ドーム, 円, 正方形, 十字形...
 本能的、あるいは、長い歴史の記憶の蓄積のおかげで、殆ど不変かつ普遍となった空間図式。

② 記号の政治学。
 意味作用(かたち・象徴)と意味内容が社会の中で「固定」と「違反」を繰り返して流動化する空間図式。↳ 重要性をもったコミュニケーションの過程 (105)

・常識 = 「固定」の運動・作用

「日常生活とは、世界を記号として解釈することに支えられて成り立っている。」 (117)
 ↳ この読みとるための文化コードこそが常識。

「記号」とは実在ではなく、すでに表現と内容を結びつけるコードである。こうして常識の世界は集団のあいだに成立しているコードの無数の束、いわば「制度」としての知識である。」 (119)

・キックユ = 「逸脱」の運動・作用の例。
 自ら生活の中で、ローカルに事物の意味を組み替える。常識的な規範では価値のないものに記号操作が意味を与える主体の欲動。

6. 時間と記憶

・計画と経験

↳ どちらも人間的事実だが、
経験は必ず計画を乗り越え、
そのスレこそが人間にとって本質的。
(194)

・多元的な時間

↳ 場所ごとに出来事による非線形な
時間がある。

・個人的な時間と人類学的な時間

次第に均質化しつつある。

↳ これらはそれぞれ別のコンテクストを
形づくる。(さらに家族的な時間の
次元も...?)

・家そのものが記憶である。

↳ 先祖からの+人類学的な+個人の
(共同体の?)

・近代デザインは家族の歴史を

追放したというより、むしろそのあらし方、
記憶の形態を払拭したのである。」